

交流・体験

「子育てを支援する時期」参加者との交流

子育てに関する経験や知恵、
子どもの発達段階に応じた
接し方などについて話しあってみましょう。



コラム「自尊感情(セルフエスティーム)」

自分自身に対して肯定的なイメージを持ち、自分を大切にしようとする気持ちをいいます。子どももおとなも周囲の人々から大切にされ、要求に肯定的、応答的にこたえてもらう経験をつみ重ねることで、自分に自信を持ち、何ごとにも積極的・意欲的にかかわって生きていく姿勢を身につけます。



「見守る」

■グループワーク

1 写真をみて
気づいたことについて、
話しあってみましょう。



2 エピソードを読んで、
グループで
話しあってみましょう。



子どもたちの写真



1



2



3

エピソード

小学校6年生の進君は、授業中もまじめだし、友だちのことを考えて行動できると担任の先生にほめられています。でも、母親の知子さんにとってはまだまだ頼りない小学生にしか思えません。

ある日の夕食前。明日、学校にもっていく接着剤がないことを思い出した進君は、近くのコンビニに買いに行こうとしました。

知子さんは、もう暗くなり始めている時間だったので、気がかりでしたが行かせました。

自転車で出かけた進君は、暗くなる前に帰ろうと、近くの空き地をとる近道をしました。その空き地では、バイクにまたがった数人の少年たちがしゃべっていました。急いでとおろすぎようとしたとき、石に乗りあげてチェーンがはずれてしまいました。あわててなおそう

としましたが、その少年たちが自分を見ているような気がして、なかなかうまくいきません。

そのうちの一人が近づいてきました。

少年は、うつむいて知らんぷりをしていた進君にかわって、すばやくチェーンをはめてくれました。

「チェーンがゆるんでいるからだよ。ちゃんとなおしてもらえよ。」と言われた

進君は、「ありがとう」と言うのがやっとでした。

ハラハラしながら待っていた知子さんは、チェーンがはずれたことを話そうとした進君にきつい口調で言いました。

知子：「あのあたりは、よくない子が集まっているのよ。バイクを乗りまわしたり、花火をしたり、あぶないって近所の人が言ってたわ。こわくなかった？ 話しかけられてもあいてになっちゃだめよ！」



進君のひとりごと…

●あのお兄ちゃんたち、こわそうに見えたけどいい人だったのになあ。お母さんは、会ったことも話したこともないのに、どうしてよくない子って決めつけるんだろう。人を見かけで判断しちゃだめっていつも言っているのに…。

話しあいのポイント

- エピソードの、どんなところが気になりましたか？
- あなたは子どもの意見を十分に聞くことができているでしょうか？